

平成30年 鳥取市教育委員会10大ニュースについて

(年間日程順) 順位付けはありません。

平成30年11月27日選定

	項目	説明(内容、実施月日など)	担当課
1	県内初の義務教育学校3校開校 ～「鹿野学園」が4月に開校～	平成25年から鹿野地域の教育についての検討と協議を重ね、義務教育学校として地域独自の教科「表鷲科」の創設し、今年4月に「鹿野学園」が開校したほか、すでに小中一貫校となっている「福部未来学園」、「湖南学園」の2校も、それぞれ「みらい科」「コミュニケーション科」を新設し、義務教育学校として新たなスタートを切りました。	学校教育課
2	市内全小中義務教育学校へ「学校業務支援システム」の導入	学校現場での校務の負担軽減を図り、子どもたちと向き合う時間を確保し、教育の質の向上、学校運営の改善を図るため、全小中義務教育学校へ「学校業務支援システム」を導入しました。	学校教育課
3	中核市移行に伴う教職員研修の実施	本市は、平成30年4月1日に中核市へ移行し、新たな「鳥取市」がスタートしました。これに伴い、県費負担教職員の教職員研修事業が県から委譲され、本市が教職員研修を主体的に企画・実施することになりました。	教育センター
4	学校給食費等の公会計化スタート	学校現場の多忙化解消を図るため、従来各学校が集金していた給食費・補助教材費等を、口座振替などの方法により、鳥取市が直接集金する公会計制度がスタートしました。これにより、教員が行う校務の負担軽減を図り、子どもたちと向き合う時間や教員どうしが相互に授業展開を吟味し合う等の時間を増やし、「教育の質の向上」と「学校運営の改善」を図ります。	学校保健給食課
5	福祉と教育が一体となった「こども発達支援センター」を設置	発達上の困難を抱える乳幼児期から18歳未満までの子どもとその保護者に対し、子どもの将来を見据えライフステージに応じた切れ目のない一貫した総合的な支援を行うため、福祉部局と教育委員会が一体となった「鳥取市こども発達支援センター(愛称:あいぽっぽ)」を、鳥取市教育センター内に5月に設置しました。	教育センター

	項目	説明(内容、実施月日など)	担当課
6	「国指定史跡鳥取城跡擬宝珠橋」復元完成	平成18年から事業を進めてきた史跡鳥取城跡大手登城路復元整備の内、最初の成果である擬宝珠橋の復元が完成し、10月8日渡り初めが行われました。当日は、これまで復元に尽力されてきた鳥取商工会議所青年部による奴(やっこ)隊を先頭に、渡り初めが行われ、擬宝珠橋創建時の藩主池田光政ゆかりの備州岡山城鉄砲隊による演武も実施されるなど、1000人以上もの市民が来場し、新しい鳥取城跡のシンボル完成を祝いました。	文化財課
7	「国指定重要文化財旧美歎水源地水道施設」グランドオープン	100年以上前につくられた山陰最古の近代水道施設が、10年にわたる文化財保存整備を終え、10月27日にグランドオープンしました。記念式典には、およそ500人が来場し、大正時代につくられた建物やガイダンス施設を見学するとともに、自然あふれる水源地を散策しました。	文化財課
8	15歳以下の世界卓球大会が鳥取市で開催	2018ITTFワールドカデットチャレンジ大会がコカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク県民体育館で開催。世界各国の代表64名が5日間にわたり熱戦を繰り広げ、団体戦男女、ダブルス男女、混合ダブルスの部門で日本の選手が優勝しました。	生涯学習・スポーツ課
9	なでしこジャパンが国際親善試合でノルウェーと対戦	全日本女子サッカー代表のなでしこジャパンとノルウェー女子代表がとりぎんバードスタジアムで対戦しました。世界でも上位を争う両チームのレベルの高いプレーは、来場した観客を魅了しました。	生涯学習・スポーツ課
10	市内小・中・義務教育学校の全ての普通教室へのエアコン整備	平成31年度末までに市内小・中・義務教育学校の全ての普通教室(654教室)へのエアコン整備をおこなうこととし、11月臨時議会に2,196,561千円の補正予算を計上しました。	教育総務課